道路整備

一日も早い道路整備の考えは

バランスを考慮し、推進していきます

大戸久一 議員

質問 昭和54年、おおむね10年以内に市街化を積極的に促進する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域に線引きされた。

市街化区域内の下小川地内青木橋たもとからの町道9544号線、ドラッグストア・ウエルシア脇の9026号線がいまだに消防自動車も通れない狭い砂利道である。安全・安心のまちづくり、都市計画税の趣旨からも1日も早い道路整備が望まれている。今後の整備計画予定は。

答弁 建設課長　日常生活に必要な生活道路として財政面、地域間バランスを考慮し、道路整備計画をしていきます。

質問 下小川1、2区の東上線南側のほとんどで、市街化準工業地域に都市計画決定後33年経過しているが、国道より一歩奥へ入ると準工業地域としての道路整備は一部しか行なわれていない。また、道路がなく建築不可の場所に公共下水道整備済みという矛盾も抱えている現状である。

本来市街化区域内の道路等基盤整備は、将来ビジョンに基づき計画すべきで、町全体をさらに見直し、よりよいまちづくりを推進していただきたいと考える。

道路整備され、未利用地の有効利用が図られれば少子高齢化対策、地域の活性化になると考えられるが、今後の計画について伺う。

答弁 建設課長　地域バランスを考慮し、道路整備を推進していきます。

いまだ未整備の市街化区域

経済活性化

ウーマノミクス推進で経済活力を

今後あるべき姿と認識している

井口亮一 議員

質問 埼玉県では人口減少下にあっても女性が働く条件の整備や活躍の場をつくることで税収が増え、経済成長できるとしてウーマノミクスを推進しているが、当町においても、こうした施策の展開によって経済活力を生み出すことはできないか。

答弁 総務課長　ウーマノミクスの推進については、企業、家庭、行政のそれぞれの理解と協力が不可欠です。町の取り組みは十分とは言えませんが、今後の日本社会、地域社会を担うあるべき姿に相違ないと考えており、推進していきます。

質問 エネルギーの地産地消を考えるとき、電力の自活に向けた太陽光発電の設置は有効であり、支援するべきである。太陽光発電の設置家庭に対する補助制度のない県内自治体はいくつあるか。

答弁 環境保全課長　補助制度のない県内自治体は小川町を含めて3自治体です。

質問 来年度予算に、制度に必要な費用を計上すべきと考えるが。

答弁 町長　以前と状況が明らかに変化してきています。このことについてはもう一度真剣に考えてみたいと思います。

太陽光発電設置住宅

すたむちゃんのひとメモ

ウーマノミクスとは…ウーマン（女性）とエコノミクス（経済）を合わせた造語で、女性の労働力をいかんなく発揮してもらうこと。その条件を整えること。経済活性化の担い手としての女性の社会進出。

公共施設の耐震化

役場・公民館・給食センターは大地震でも大丈夫か

全庁的な整備計画を検討します

戸口　勝 議員

質問 公共建築物の多くは、昭和40～50年代に建築されているが、耐震性のないものや確認していない建築物はいくつあるのか。また、古いものはどこか。

答弁 建設課長　役場と町民会館が残された大きな施設で、その他74棟あり、木造で古いものは昭和11年建築の和紙体験学習センターです。また、コンクリート製では、昭和40年建築の中央公民館です。

質問 役場庁舎や公民館は防災施設として避難所の役割も担っているが、その整合性と安全性についてどう考えるか。

答弁 総務課長　財政的な面も踏まえ、全庁的な整備計画を検討します。

質問 西中の改築で町立学校の耐震化は終了するが、学校関連で考えれば給食センターだけが耐震化、改築が終わっていない。また、業務の民間委託が平成20年からの計画で取り上げられているが、どうなっているのか。

答弁 教育長　給食センターのあり方検討委員会で、老朽化・委託・耐震化・人事についてなるべく早く結論を出していきます。

昭和 55 年建築の給食センター

その他の質問

◎平成25年度予算編成に向けて

◎正規職員とそのほか職員のあり方